



手作りのしめ縄で迎春準備 福井市松本地区 幾久白山神社



しめ縄作りに参加した福井市松本地区の皆さん=いづれも福井市大宮1丁目の幾久白山神社で

11月の秋晴れの日曜日。福井市大宮1丁目の幾久白山神社で、同神社役員、協力会、松本地区の幾久町・高木町・大宮などの各自治会長と幾久高木壮年會が新年に向け、神社に飾るしめ縄を作った。毎年この時期の恒例となった作業に40～80代の男女合わせて21人が参加。午前8時半から正午過ぎまで、神社協力会が中心となって工程を分業し、作業に臨んだ。同壮年會幹事の高倉康司さん(70)は「松本地区は児童の登下校の見守りを住民で行ったり、自治会主導で地区内に防犯カメラを設置して住民の安全を守る活動をしたりするなど、地域活動が盛ん。地区を愛する気持ちがさまざまな活動につながっている」と話す。数年前から始まった同神社のしめ縄作りだが、以前は既製品を購入していた。しかし神社の大掃除や草刈りをみんなで協力して行う中で「作ってみよう」と始まったという。しめ縄に使用するわらは、同市内の農家から調達。最初にわらを大きな桶のような器具できれいにし、5・6本ずつ輪ゴムで小さな束にしていく。次にそれらを合わせて太い束にし、ねじりながら竹筒に強く固く巻きつけていく。力が必要なこの工程は男性3人がかりでも一苦労だが、組になった3人で声を掛け合い、

息の合った様子で手際よく作業は進んだ。この日出来上がった大小3本のしめ縄は、大みそかに幾久白山神社の本殿と、2カ所の入り口にある鳥居に飾られ、年神様と初詣の参拝者を待つ。「神社に当たり前のようにあるしめ縄も、この神社のものは地区で力を合わせて作ったものだと思うと誇らしい」と笑顔で話す高倉さん。12月には、正月の門松作りも同メンバーで行う。幾久白山神社に初詣に行くことがあれば、手作りのしめ縄と門松にぜひ注目してほしい。



大量のわらを丁寧に束にしていく



しめ縄の端をかがる作業

今回のお便りコーナーのテーマは「年賀状」。たくさんの方のさまざまな意見が寄せられました。感じたのは、年賀状が届いてうれしくない人はあまりいないことと、無理してやめなくてもいいということ。逆に無理し

て続けることでもないということ。長年会えていなくても、年賀状を出したから出している、会えない人だからこそ1年に1度の便りがうれしいのかもしれないと気付かされました。

簡単♥おいしいクッキング〜

クリスマスパーティにぴったり! 餃子の皮で包む チーズ&ウインナーのおつまみ

【材料】作りやすい量
餃子の皮.....25枚
「切れるチーズ」などの固形のプロセスチーズ.....下記【準備】の大きさのもの13個分
ウインナー.....6本
揚げ油.....適量
ケチャップ.....好みの量
【準備】チーズは餃子の皮に包める程度の大きさ(約2.5×2×0.7cm角)に切る。ウインナーは縦半分に切る。

【作り方】

- ① チーズを餃子の皮で包む
- ②
- ③ ウインナーを餃子の皮の真ん中に置く。
- ④ 皮の左右をかぶせるようにウインナーに巻きつける。巻き終わりに水(分量外)を付けてとめる。

②①を180℃の油できつね色になるまで揚げたら出来上がり。
※ プロセスチーズで作るので冷めてもいいです。
※ 包む工程は簡単なので、ぜひお子さんとやってみてね!

読者からのお便りコーナー

お題は「年賀状」

コロナ禍で会えなくなった人からの便りを見ると心温まります。(大野市 30代)

中学生の頃、兄宛ての年賀状の住所が、「福井市」だけの記入だったのに、ちゃんとわが家に届きました。そう多くない名字とはいえ、「郵便局さん、さすがだな」と思います。(福井市 50代)

年々「来年から賀状をやめさせていただきます」との内容が増え、ちょっと寂しいです。印刷でもひと言添えるように心掛けております。(あわら市 60代)

1枚1枚その方を思い浮かべながら書いています。私も毎年の年賀状、めっちゃ楽しみにしています。でも毎年「今年こそは会いたいね」って言い続けて40年以上会っていません。(福井市 60代)

結婚してから主人の年賀状は、私が絵柄を選び、印刷屋さんで注文し、宛名と一言を筆ペンで書いています。主人は毎年ノータッチです。今では、主人の会社の人のフルネームと住所を覚えるまでに。年に1度の大変です。(福井市 40代)

LINEもいいけれど年賀状の一言で心が温かくなる。(大野市 60代)

還暦になり、年賀状を出すのをやめることにしました。今までのように訪問することもままらなくなりました。(鯖江市 60代)

40年余り続く高校時代の友達との年賀状のやりとりが、楽しみな歳になりました。(福井市 50代)

年賀状のやりとりにより続く縁。高校時代の友達に、子育てで落ち着いたらまた会いたいです。(福井市 40代)

達筆な字で年賀はがきをもらうと、気持ちが癒やされます。自分も自筆で達筆と思うのですが、うまくいきません。(鯖江市 70代)

若い頃は何か手書きしましたが、だんだんおっくうになってしまい、今ではもう出すことすらなくなってしまいました。(あわら市 60代)

年賀状、出したけれど書くのが面倒になってきました。100%手書きから80%印刷に。もうどうもしらさ100倍!なので出し続けます。(福井市 60代)

新年2月で仕事を辞め、時間がたっぷりあるので「今年こそは」と早めに年賀状を買いました。すでに年賀状にしようと思っただけですが、まだ1枚も書いていません!! 気持ちだけはありますが、なかなかといったところです。(越前町 70代)

年賀状のやり取りに悩んでいます。来年の年賀状に退職のお知らせと年賀状をやめることをお知らせできたらと思っています。(勝山市 50代)

最近では年賀状の代わりにメールやアプリを使う時代ですが、私は年賀状派です。なぜなら、コロナ禍で県外の友人たちと会えないため、年賀状はつながりを感じるものとなった感じがします。(勝山市 50代)

新社会人になって上司に年賀状を送るため住所を知りたいのですが、聞きづらいです。(福井市 20代)

コロナ禍で人との距離がある中、あえてメールではなく、年賀状で懐かしい人との交流が生まれたいいな。(坂井市 50代)

子どもも大きくなり、数年前から家族連名から私個人の名前で、友人たちに出すようになりました。コロナ禍で県外の友人たちと会えないため、年賀状はつながりを感じるものとなった感じがします。(勝山市 50代)

自分の心と体に向き合うカフェ

家庭薬膳料理などを提供するカフェ「リエコー」。オーナーの青山理恵子さん(48)は、看護師資格を取得後、医療以外の道に進み、仕事に子育てにと多忙な日々を過ごしてきた。一方で「いつか福井の人の健康に関わることがしたい」という思いを長年温めてきた。特に仕事や育児、介護で自分のことは後回しになりがちな女性に、「自分の心と体に向き合う場所を」と、カフェ開業を決意。今年2月にオープンした。

人気の「リエコーランチ」は、メイン料理と5色のおかずと豆乳スープ・飲み物が付いて1,500円。季節に合わせて身体に必要なものを食べ物で補うという家庭薬膳の考え方がしっかり反映されたランチだ。20食限定で、なくなり次第終了。席の予約はできないが、ランチの取り置きはできる。飲み物は「メディカルハーブティー」がお薦め。効能が多種多様で、飲み合わせの注意も必要なハーブを知識に基づいて提供したいと、シニアハーバルセラピストの資格を持つ薬剤師が監修している。

青山さんが健康について考えるきっかけづくりとして実現したかったことの1つが「保健室カフェ」。歯科衛生士や助産師、鍼灸師などを招き、お茶を飲みながら気軽に話を聞ける企画で、これまでに、口腔ケアや更年期、便などをテーマに開催した。参加者らは日頃気になっていることなどを熱心に質問。参加者同士の交流も生まれ、温かい雰囲気にも包まれたようだ。「リエコー」という店名には「再び響きあう」という意味が込められている。青山さんは、保健室カフェが名前の通りになったと実感。「みんなが元気になる場所をこれからもつくりたい」と、思いを一層強くした。

保健室カフェは予約が必要で、参加費は焼き菓子と飲み物が付いて500円。内容・日時は店内ポスターやインスタグラムなどで告知する。開業にあたり「このコロナ禍になぜわざわざカフェを?」と周囲の人から心配された。「ありがたかったが、この先の5年、10年、ど



「リエコーランチ」の一例。週替わりでメイン料理が変わる

うせ生きるなら、何か自分に残せることをしたいと思って」と話す青山さんの表情には、さまざまな経験をしたらこそその温かさや、強さかにも出ていた。



げんきときれいをつくるcafé
Re echo(リエコー)
①福井市高木中央2-3801-1 ②0776-92-0277
③午前11時～午後3時 ④月曜日 ⑤12/29～1/1は休み
※インスタグラム、フェイスブックで情報発信中

築100年余り 1830(天保元)年創業の老舗旅館

「小京都」と呼ばれる大野市街地の細い通りに、ちょっと昔にタイムスリップしたような、趣のあるたたずまいの宿「俵屋旅館」が立つ。1830(天保元)年創業という歴史ある宿を、女将の筒井真由美さん(59)に案内してもらった。100年余り前に建てられたという旅館は、紫の家紋付き玄関幕がよく似合い、風格を感じさせる。廊下を歩くと床板がきしむ音も趣があり、かえって新鮮に聞こえる。昔ながらの急な階段を上ると、踊り場には大正元年に作られたという旅館の看板が、2階の長い渡り廊下や大広間、そこから見える中庭も、新しい建物にはない風情が漂う。

目を引くのは、中庭に面した渡り廊下の窓。1枚1枚絵柄が異なるレトロなすりガラスで、日の光を屋内に柔らかに届けている。平成に大雪のため割れてしまうまでは、大正時代に作られたガラスが大切に使われており、そのガラスの雰囲気を感じられる限り再現したのだという。

高松宮殿下が大野市で開催されたスキー大



中庭から見た旅館



会にご出席の折、数回宿泊されたため、殿下専用の夜具入れが今も残るほか、作家の水上勉や司馬遼太郎も宿泊した。大野市の山間部で、良質な銅が産出されていたことから、大野藩の家老の家があったといわれる銅製の灯笼をはじめ、花瓶や水盤など銅製の調度品も残り、それら全てが宿の古き良き歴史を物語っている。

4代目で板前も務める筒井清則さん(63)は、大阪市の名店で約10年にわたり料理修業をした経歴の持ち主。こだわりの自家製だれを使ったウナギ料理を得意とし、予約すれば食事のみの利用も可能だ。うなぎのランチは



2年前に新設された茶室

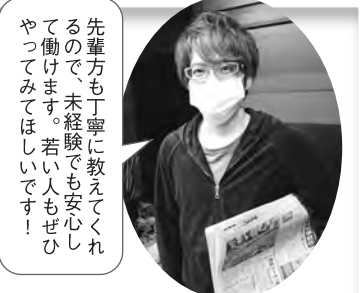


俵屋旅館
①大野市日吉町1-1 ②0779-66-3807



Hello! 私の町の新聞配達さん

毎朝、ポストをのぞくと届いている新聞。どんな人が配達しているの? 今回、坂井市の中日新聞・日刊県民福井 春江販売店で配達業務に携わって6年目になる吉川俊之さん(31)に、新聞配達の仕事についてやりがいや思いを聞いた。



先陣方も丁寧な教えで、とても働けました。未経験でも安心してやってみてほしいです!

Q 仕事を始めた当初のことを教えてください。

A 新聞配達は「早朝の仕事で大変」というイメージがありましたが、自分は元々夜型だったので、仕事になじむのは早かったと思います。配達業務も、順路記号(配達経路を覚えやすくするために単一化した記号)などを教えてもらい、スムーズにできるようになりました。

Q 仕事をしていたうれしかったことは。

A 大雪の時に、お客さまが玄関先で出迎えてくださり、「こんな時にありがとうね」と言っていた時は本当にうれしかったです。



配達前、折り込みチラシをセットする吉川さん

Q 配達中、実は楽しみにしていることは。

A 配達コースを工夫したり、可能な所は極力走ったりして、配達時間を少しでも短縮することです。

Q 配達の仕事について良いところを教えてください。

A 拘束時間が短いので、別の仕事やプライベートに時間を活用できます。また、自分のペースで黙々と作業できるのも良いところの1つです。

Q 今や配達業務の中心的存在という吉川さん。今後の目標は。

A 他の配達スタッフさんに突然のハプニングがあっても、ヘルプに行けるように、配達のコースを全て覚えたいです。

「めぐみごはん」

現在、俵屋旅館をはじめ大野市内の6つの宿では、宿泊しなくても朝ごはんを楽しめる「めぐみごはん」を提供している。大野散策のスタートに、自分へのご褒美に、大野の旬の食材や調味料にこだわったちょっとぜいたくな朝食はいかが。

旅館によってメニューや価格、時間が異なる。詳しくは「めぐみごはん 大野市観光協会」で検索するか、大野市観光協会 ☎0779-65-5521へお問い合わせ。

〈提供施設〉
俵屋旅館、俵屋旅館、ふじや旅館、Cafe & Guest house Name came Ono(ナマケモノ)、阿さひ旅館、農家民宿このは

使ってみたくありません?

福井弁ミミ講座

友だちと

A 今日、久しぶりに会えてうれしかったの。
B ほんとに! おもてなかったわあ。
意味
A 今日、久しぶりに会えてうれしかったね。
B 本当に! 大変楽しかったわ。
※方言は県内でも地域によって異なります

県産のリボンでクリスマス飾り

日時 12月19日(日)
午前の部 午前10時30分～正午
午後の部 午後1時30分～3時

場所 ハビリン2階の福福小屋

参加費 2,000円(はさみ持参)
対象 小学4年生以上
定員 各部20人(先着順)
講師 堀内昌子さん(スクエアリボンアート認定講師)、橋谷芳子さん、市川美笑さん

福井県はリボン生産日本一です。県産のリボンで、クリスマスを彩るオーナメント(直径20cm)を作ります。

主催: 日刊県民福井・中日新聞社
共催: 福井市観光物産館福福館
問い合わせ・申し込み先
日刊県民福井事業グループ ☎0776-28-8618
(平日 午前10時～午後6時)

今月の読者アンケートプレゼント

紙面をより良くしていくためにアンケートにご協力ください。当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。

方慮法募 ①希望のプレゼント ②住所、氏名、年齢、性別、電話番号、職業 ③現在購読の新聞名 ④地元のお薦めスポット ⑤読者からのお便りコーナー「2022年にチャレンジしたいこと」を記入の上、下記のいずれかの方法でお送りください。

- はがき [宛て先] 〒910-0005 福井市大手3-2-13 中日新聞分室内 「さんぽみち福北12月号プレゼント」係
- メール osanpo@fukui-koho-c.co.jp
- LINE さんぽみち公式アカウント ID: @059fzwww
- アクセス 0776-28-8602 (アクセスの際は2021年12月末まで終了させていただきます)

締め切りは12月24日(金)必着
※当選者の発表は、プレゼントのお届けをもって代えさせていただきます。

- A 十楽の森 焚き火カフェ 90分利用券(マシュマロ付き) 1人
- B カフェ・レストラン オレンジ お食事券1,000円分 3人
- C あわら市観光協会 「北陸あわら温泉美肌の湯」入浴劄5袋セット 3人
- D なみまちCAFE お食事券1,000円分 3人
- E 吉崎御坊蓮如上人記念館 蓮如館(博物館)無料拝観券 5人
- F Re echo(リエコー) メディカルハーブティー 1杯サービス券 4人
- G 俵屋旅館 お抹茶セット(和菓子付き) ※宿泊客限定 5人

※価格はすべて税別です

個人情報保護法

さんぽみちではお客さまに記入いただいた個人情報は、本誌の企画・編集にのみ利用させていただきます。